

平成29年度第1回推進地域連携協議会

課題解決型授業(主体的・対話的で深い学び)に関する調査研究プロジェクト 平成29年度の取組について



平成29年7月19日

旭川市立朝日小学校 (実践推進校)

福嶋 顕 勝

課題解決型授業(主体的・対話的で深い学び)に関する調査研究プロジェクト 平成 29 年度の研究について

1 これまでの研究経過

平成 27 年度からの 2 か年は、本プロジェクトの推進地域として旭川市が北海道教育委員会の指定を受け、実践推進校(朝日小学校)及び連携協力校 5 校(新町小学校, 青雲小学校, 大有小学校, 近文小学校, 永山西小学校)の教師が、「アクティブ・ラーニング・プロジェクト・スタッフ(略称ALPS)」を組織し、子どもの将来に生きて働く力を養うため「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善」についての研究を推進してきた。

(1) 1 年次(平成 27 年度)の研究

平成 27 年度の研究は、「論点整理」などに見られるアクティブ・ラーニングの理論研究を中心として通して、次の成果及び課題をまとめ、全道に発信した。

成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級経営の重要性 ② アクティブ化シートの作成(4種類) <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブ化シートA」 ・「アクティブ化シートB」(①課題意識重視, ②対話重視, ③活用重視) ③ 環境整備の必要性
課題	<ul style="list-style-type: none"> ❶ アクティブ化シートの活用に当たり、子供にとって学ぶ価値があり、追究する魅力のある単元開発ができたかどうかについて、授業実践を通して、十分に検証することが必要であること。

(2) 2 年次(平成 28 年度)の研究

平成 28 年度は、前年度の課題を踏まえ、「アクティブ化シートA(単元レベル)」及び「アクティブ化シートB(一単位時間レベル)」を活用した授業実践の積み重ね、どの教師も活用しやすい汎用性の高い「アクティブ化シート」とすることを目的に研究を推進し、全道に発信した。

成果	<p style="text-align: center;">「アクティブ化シートA」の実践化による成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 育てたい資質・能力を意識することで、単元のねらい、本時の目標・評価がぶれない授業を展開できる。 ② 単元意識をもちやすくなる。 ③ 単元を通じた問題解決的な学習展開の充実につながり、毎時間の学習で「何をすべきか」を子どもが明確にもてるようになる。 <p style="text-align: center;">「アクティブ化シートB」の実践化による成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 場面ごとに分かれているため、重点化するポイントが分かりやすい。 ② 日常の授業を改善しやすい。 ③ グループでの学習と一斉での学習の適切なバランスをとることによって、十分な理解と思考の活性化につなげることができる。 ④ ICTを効果的に活用することで導入が短時間になり、子ども主体の活動時間や子どもの思考の時間を確保することができる。
----	--

	<p>ALの視点を取り入れた授業を行うための心得の作成（詳細は平成28年度研究報告書P11）</p> <p>① 指示（説明）をゼロに近づける。</p> <p>② 子供が主体である意識をもつ</p> <p>③ 子供が「浸る」場面をつくる</p> <p>④ 教えるタイミングを見極める</p> <p>⑤ 構造的な板書を心がける</p>
課題	<p>❶ 「アクティブ化シートA」に沿って構成することが難しい教科があった。教科に合わせて構成を変化させたり、改善したりする必要があること。</p> <p>❷ 「アクティブ化シートB」では、「対話」重視の学習となったときに、ねらいが達成できたのか、「評価」の在り方が今後の課題であること。</p> <p>❸ また、子供たちが活発に学習に取り組むようになってきたが、子供一人一人に目を向けたとき、果たして資質・能力が育成されているのか分かりにくいこと。</p>

2 平成29年度の取組

今年度より、引き続き、旭川市が推進地域となり、実践推進校（朝日小学校）及び連携協力校5校（新町小学校、青雲小学校、知新小学校、日章小学校、中央中学校）の教師が、「アクティブ・ラーニング・プロジェクト・スタッフⅡ（略称ALPSⅡ）」を組織し、前年度までの研究成果や課題を踏まえるとともに、小中連携の視点からの実践研究を推進する。

(1) 今年度の重点的な研究内容

- ア 育てたい資質・能力を明らかにした上で、単元の目標、本時の目標、及び評価規準を設定し、各教科等の特質や子供の実態に応じた最適な単元構成を工夫すること。
- イ 「学びの振り返り」を単位時間の中に位置付けるなど、学習指導後の子どもが変容した姿を明確にして「アクティブ化シート」の作成を工夫すること。
- ウ 子供の思考をアクティブにするため、「アクティブ化シート」の日常化を進め、シートA及びBの汎用性をより一層高めること。

(2) 小中連携による実践研究

- ア 中央中学校区の5小学校、1中学校による研究環境が整ったことから、これまで研究で開発した「アクティブ化シート」を中学校においても活用できるようにすること。
- イ 小学校において、「主体的・対話的で深い学び」を体験してきた子供たちが、中学校において、どのようなパフォーマンスを見せるのかなど、小中連携教育の視点で研究すること。

(3) 今後の研究推進計画

- ・ 7月31日（月） 第5回合同研修会
「ミドルリーダー指導力向上研修会」の授業公開に向けた
第6学年国語科学習指導案づくり① 13:30～15:30
- ・ 8月29日（火） 第6回合同研修会
上川教育研修センター理科講座での授業提供（朝日小学校）

福島教諭 第6学年理科「月と太陽」9:20~10:05

- ・ 9月上旬 青雲小学校 山岡教諭 第1学年算数科
- ・ 9月11日(月) 第7回合同研修会 兼 朝日小9月研(市内一般公開)
石塚教諭 第1学年国語科
近田教諭 くりの木学級「生活単元学習」
- ・ 9月13日(水) 知新小学校 増田教諭
- ・ 9月予定 日章小学校 山澤教諭「道徳」
- ・ 9月中旬 第8回合同研修会
第6学年国語科学習指導案づくり②
- ・ 10月6日(金) 中央中学校1日参観日 5時間目にALPSⅡで授業参観
- ・ 10月上旬 第9回合同研修会
第6学年国語科学習指導案づくり③
- ・ 10月18日(水) 第10回合同研修会 兼 「ミドルリーダー指導力向上研修会」
宮腰教諭 第5学年算数科(予定)
東 教諭 第6学年国語科
- ・ 11月1日(水) 新町小学校公開研究会
- ・ 11月10日(金) 第11回合同研修会 兼 朝日の教育「実践発表会」
宮原教諭 第2学年算数科
福島教諭 第6学年理科
- ・ 1月下旬 第12回合同研修会 兼 第2回推進地域連携協議会
- ・ 2月上旬 研究プロジェクトのまとめ

『思考アクティブ化シートA(単元レベル)』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点 (必要に応じ選択)
<p>一 次</p> <p>事象との出会い</p> <p>課題意識をもつ</p>	<p>○具体的な体験や活動を通して学習対象やテーマへの興味・関心、疑問をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈個〉 あれ? どうして? どうやったの? すごい! おもしろい! やってみたい!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈一斉〉 みんなで解決したい! 確かめたい! 探したい!</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>*単元を通した「深い学び」につながる課題(単元のゴール)を明確に設定する。</p> </div>	<p>①子どものよりどころ(日常生活, 生活経験, 既習事項等)を事前調査等で把握する。</p> <p>②実体験(本物に触れる, 見る, やってみる)や間接体験(資料や映像を活用)等共通体験場面を設定する。「ずれ」「あこがれ」「可能性」を感じさせる。</p> <p>③必要な場合は, 基礎情報を集めさせる。</p> <p>④「発問」や「環境構成」を子どもに課題意識, 目的意識が生まれやすいように工夫する。</p> <p>⑤子どもにとって「学習する必然性のある」「目的が明確になる」課題となるように工夫する。課題の共有化と協働で学ぶ意欲化を図る。</p>
<p>二 次</p> <p>解決への見通しをもつ</p> <p>追究解決</p> <p>まとめ 振り返り</p>	<p>○自らが解決すべき課題を明確にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈個〉 ~をしらべたい。~を確かめてみたい。</p> </div> <p>○学習課題追究解決への見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈個〉 ~すれば解決できそうだ。~を使って調べたい。~するためには~を知りたい。~するのにこれくらいの時間がほしい。</p> </div> <p>○計画を基に主体的に追究し, 解決活動を行う。</p> <p>○協働的な学びを通して学びを深めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈個〉自分「何を」分かったのか ~は分かったけど, それなら~は?</p> </div>	<p>⑥〈個の思い〉から, 学級全体の課題へと収束し課題を把握させる。(子どもの言葉を大切に)</p> <p>⑦学習の(ゴールへの)方向性や解決の方法, 追究観点等のイメージを子どもにもたせる。(教科や領域に応じた見通しの内容や方法を選択する)</p> <p>⑧具体的な学習計画を子どもと共に立てる。</p> <p>⑨単元を通して育てたい資質・能力に沿って, 調べ方, 学び方を提示したり, 子どもが(対象や方法)を選択したりする等, 個に応じて対応する。</p> <p>⑩追究活動は, 対話的な学習を意識して進め, まとめ方や小単元のゴールを意識させる。</p> <p>⑪追究活動では, 試行錯誤できるように十分な時間を設定する。</p> <p>⑫目的に合わせて学習形態やグルーピングを工夫する。(必然性, 目的意識, 参画意識を重視する)</p> <p>⑬子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙, ICT, 各種ツールの活用)</p>
<p>三 次</p> <p>新たな課題設定 見直し 追究解決</p> <p>まとめ</p>	<p>○既習事項(小単元の追究)を基に, 新たな課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈一斉〉 そうなんだ! わかった! できた! でも, 自分ならこう考えるな…?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈ペア・グループ〉対話を通して学ぶ ~は~ということだったよ。~するためには~すればいいんだ。~さんが言っているのは~ということだね。これでいいのかな? 他に方法や考えはないかな?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈一斉〉妥当性の検討, 新たな知の創造 つまり~ということだね。例えば~だね。 ~ということが明らかになったね。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>*単元のゴールとしての子どもの変容した姿を設定する。</p> </div>	<p>⑭できるようになったこと, 分かったことを基に, 新たな課題を設定する。(子どもの主体的な学びを大切に) *教師の都合だけで進めない</p> <p>⑮具体的な追究計画を立て, 解決への見通しをもつ。</p> <p>⑯必要な情報を集め, 課題に即して思考ツール等を活用し整理する。「思考の流れ」が見えるように工夫する。</p> <p>⑰課題に即して, 集めた情報を分析する。子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙, ICT, 各種ツールの活用)</p> <p>⑱「子どもの見取り」を適切に行い, 個に応じた目標達成への支援を具体的にを行う。</p> <p>⑲自分の考えをしっかりとらせてから話し合わせる。</p> <p>⑳「ゆさぶり発問」や「本質的な問い」を工夫し, 熟考させる。(批判的思考も重視する)</p>
<p>三 次</p> <p>振り返り 吟味</p>	<p>○単元を通して学んだことの意味を考え, 自分の学びの成果を自覚する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈個〉概念的意味を考える そうか。~はこういうことだったんだ。 ~だけではなく~から考えると~だね。</p> </div>	<p>㉠交流場面が自力解決の集合体にならないよう, 対話的交流が生まれるように工夫する。</p> <p>㉡学びの自覚化を促し, 学びの有用感がもてるように工夫する。生活とのつながりを重視する。</p> <p>㉢自分の獲得した知の妥当性と有用性を批判的に評価し, 社会とのつながりを意識させる。</p> <p>㉣各教科等の特性に合わせた深い学びを整理する。</p>

*次構成は指導時数や領域・内容構成により柔軟に考える。

『思考アクティブ化シート B-I 【課題意識重視】』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点（必要に応じて選択する）
<p>導 入 20～25分</p>	<p>事象との出会い ○強い興味・関心，動機付けとなる事象と出会う。</p> <p>「?」「!」をもつ ○具体的な体験や活動を通してテーマへの興味・関心，疑問をもつ。</p> <p>課題意識の芽生え ○芽生えた思いから，学習課題へつなげる。</p> <p>課題意識をもつ ○子ども自ら解決すべき課題を明確にする。</p> <p align="center">*課題の設定「単元全体の（ゴールイメージがもてる）課題」「子どもにとって意味のある課題」</p>	<p>①子どものよりどころを把握する。（日常生活，生活経験，既習事項等）</p> <p>②直接体験（触れる，見る，やってみる）や間接体験（資料や映像を活用）等共通体験場面を設定する。 ・直接体験～ひと，もの，こととの出会い，試行活動，日常生活における困り感等 ・間接体験～過去の経験映像や様々な資料（客観的なデータ，映像等）</p> <p>③これまで自分がもっていた考えとのや違いを認識させる。</p> <p>④子どもとつながりのある（生活や思い等）課題となるように工夫する。</p> <p>⑤芽生えた課題意識を強く，明確にするために「発問」や「環境構成」を工夫する。</p> <p>⑥「対話」を通して，芽生えた思いを整理させながら，意識化させる。</p>
<p>展 開 10～15分</p>	<p>解決への見通しをもつ ○学習課題への解決の見通しを立てる。</p> <p>次時へのつながり ○次時からの具体的な手立てを考える。</p>	<p>*課題設定重視では，この段階が追究ではなく【見通しをもつ】段階になる。</p> <p>⑦子どもと共に具体的な学習計画を立てる。 ・既習事項，過去の経験を基に解決の方法を考えさせる。 ・追究の方法を具体的に考えさせる。 ・解決に向けて必要なものや事柄を考えさせる。 ・仮説や予想を立てさせる。（何を，どこまで達成すればよいか，ルーブリック他） ・まとめ方や表現の仕方を考えさせる。</p> <p>*課題設定重視ではこの段階がまとめではなく「次時への意欲化」になる。</p> <p>⑧次時からの学習について調べ方（対象，方法）学び方（形態，進め方）等を確認する。</p> <p>⑨ゴールイメージと毎時のねらい（ルーブリック他）の関連性をもたせる。</p>
<p>終 末 5～10分</p>	<p>本時の振り返り ○単元全体の見通しをもてたか，振り返る。</p>	<p>⑩課題が明確になったかどうかを振り返るための視点を工夫する。 例・自分の課題が明確になったか ・学習計画を立てるために有効だったこと，難しかったこと ・自分の今日の学びのよさ，友達のよさ</p>

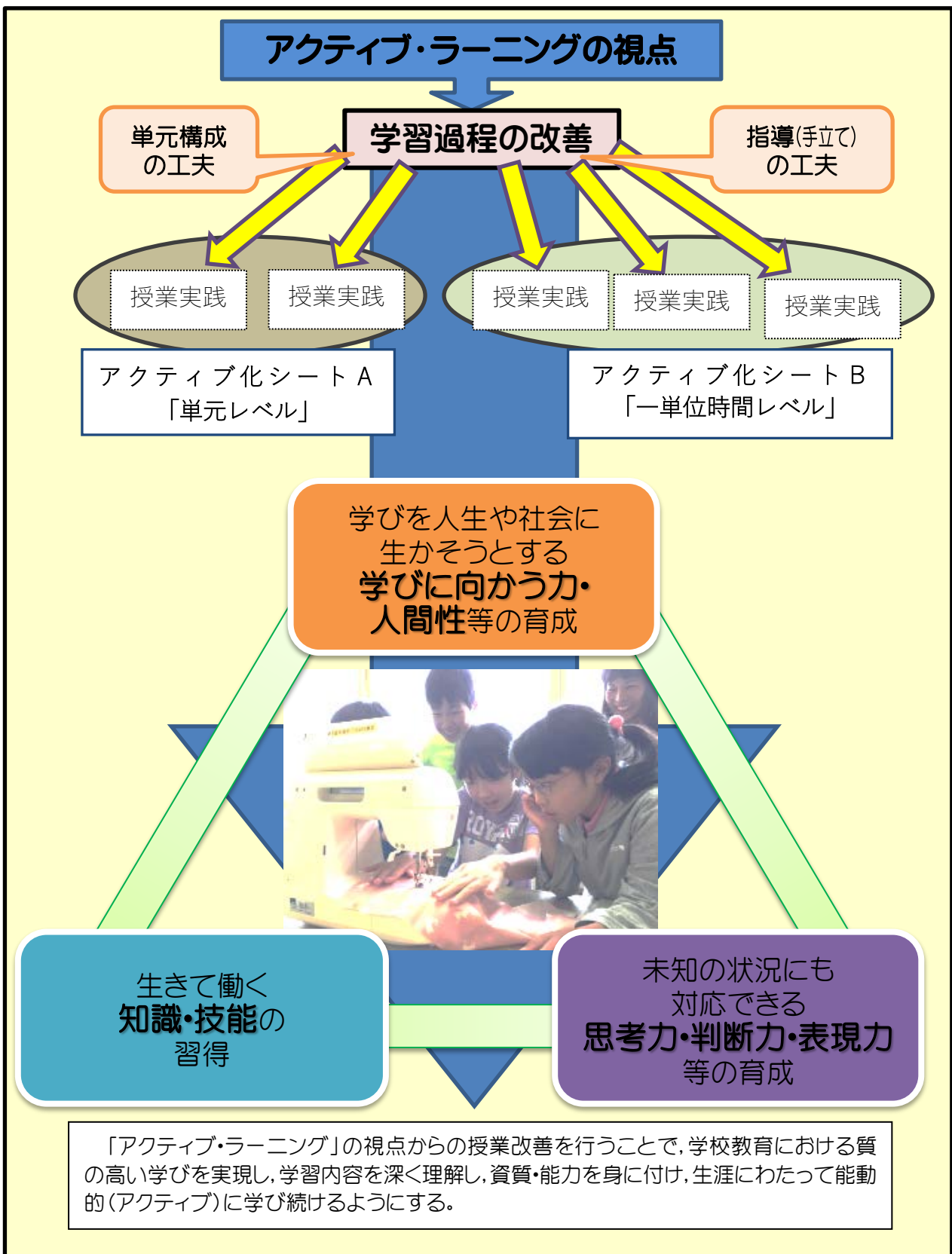
『思考アクティブ化シート B-II 【対話重視】』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点 (必要に応じて選択する)
<p align="center">導 入 1～3分</p>	<p>課題を想起する</p> <p>○学習計画を確認したり, これまでの学習を振り返り, 課題意識の自覚化を図る。</p> <p align="center">*本時のめあて～本時の「活動内容」と「到達目標」を明示する。</p> <p>解決への見通しをもつ</p> <p>○本時のゴールイメージをもつ。</p>	<p>①「単元の学習課題との関連」を意識させる。</p> <p>②短時間で本時の課題や内容を「つかむ」ことができる工夫をする (ICT活用等)。</p> <p>③前時で未解決な内容や新たな疑問等を基に, 本時のめあてを設定する。</p> <p>④本時の目的, 学習のゴール, 方法, 時間の目安等を明確にする。</p> <p>⑤目標達成に困り感のある子どもへの「具体的な支援の手立て」を工夫する。</p>
<p align="center">展 開 25～40分</p>	<p>追究・解決活動を行う</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>個人 既有知識や経験を基にして「何を」学ぶのか, 目的意識をもつ</p> </div> <p>○計画を基に資料を集めたり, 操作したり, 体験をしたりしながら結果や情報を獲得する。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ペア・グループ 共に体験する, 調べる, 伝え合う, 説明し合う, 教え合う等を行いながら, 多様な情報を共有, 整理し, 課題解決に向かう。</p> </div> <p>○自力解決を基としながら, 対話的な学習を通し, 情報の精査, 吟味を行い, 自分なりに課題に対する考えをもつ。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>個人 何が分かったのか, できたのかを自分なりに整理して言語化する。</p> </div> <p>○解決への方向性の確認, 修正を図りながら思考の拡散と収束を行う。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>全体 情報を共有したり, 未知のことに気付いたり, 相違点や妥当性を見付けたりしながら思考を広げ, 深めていく。</p> </div> <p>まとめる</p> <p>○学級全体で話し合いをしながら課題を解決する。</p> <p>○価値の共有化, 一般化を行う。</p> <p align="center">*本時のゴールとして期待する子どもの具体的な姿を明示する。</p>	<p>⑥思考が深まっていくように追究・解決活動に十分な時間を設定する。</p> <p>⑦対話的に学ぶ (input-output する) 過程を基本として設定する。</p> <p>⑧子どもの見取りを適切に行い, 個に応じた目標達成への支援を行う。</p> <p>⑨子どもが必要な知識や情報を獲得するための環境整備を行う (既習事項・資料・タブレット端末等)。</p> <p>⑩グループの組合せは, 事前調査や日常の見取りを基にねらいに応じて柔軟に工夫する。</p> <p>⑪子どもの思考の流れを可視化し, 情報を整理, 分析できるようにする (ホワイトボード, 模造紙, 付箋, ICT活用等)。</p> <p>⑫獲得した知識・情報と既存の知識や経験等とを関連付けて新たな考えを創り出すようにする。</p> <p>⑬話し合い活動を通して, 妥当性や客観性等の視点から納得解, 最適解を導くようにする。</p> <p>⑭「揺さぶり発問」「適用する問い」等, 本質に迫る問いかけをする。</p>
<p align="center">終 末 1～3分</p>	<p>振り返る</p> <p>○自分の「学びの姿」や「学びの価値」, 学びの定着を振り返る。</p>	<p>⑮本時の学習に関わる問題に取り組み, 学力の定着や一般化を図る。</p> <p>⑯自分の「学びの姿」や「学びの価値」について振り返らせ, 次の時間への意欲化を図る。</p> <p>⑰単元全体との関係を確認させる。</p>

『思考アクティブ化シート B-III【活用重視】』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点（必要に応じて選択する）
導入 3～5分	<p>前時までの学習を想起する</p> <p>○前時までに獲得した知識・技能等について確認し、課題意識をもつ。</p> <p>本時のめあて～深い学びにつながる、習得した知識・技能の活用や習得した知識・技能だけでは対応できないことを本時の問いとして明示する。</p> <p>解決への見通しをもつ</p> <p>○既習の知識と組み合わせて課題を解決するために必要な情報を選択し、解決への方向や方法を見通す。</p>	<p>①本時の追究意欲や学ぶ必然性に関する知識・技能について確認する。</p> <p>②既習の知識だけでは解決できない新たな事実を提示することにより、課題解決への意欲をもたせる。</p> <p>③課題解決のために必要な条件などを明らかにする。</p> <p>④子どもがよりどころとなる資料や映像、助言等を行う。</p>
展開 20～35分	<p>追究・解決活動を行う</p> <p>個人 必要な資料を集めたり、操作したりして得られた結果や既習事項を整理、比較、分析等行いながら考えをもつ。○既習事項を確認する。 (自分とつながる)</p> <p>ペア・グループ 解決した方法や内容についてグループ等で表現し合い、自力解決した内容の修正や補強を行う。○対話的な学びを通して、比較、関係付け等を行いながら、自分なりの考えを見直す。 (多様な考えとつながる)</p> <p>全体 課題解決に向け、学級全体で既習内容や技能だけでは解決できなかったことについての考えを交流し合い、学習課題を解決する。○対話的な学びを通して解の妥当性、共通性、客観性等を総合的に評価して新たな知を形成する。</p> <p>個人 自らの言葉で課題解決した内容をまとめる。○自分の獲得した新たな知を言語化する。 (概念的知識としてつながる)</p> <p>まとめる</p> <p align="center">*獲得した知識を教師の意図的な意味付けを反映させ、一般化するよう工夫する。</p>	<p>⑤見通しの段階で提示された方法や既習内容・必要な資料等を示しながら、個々に一定の自力解決が図られるよう配慮する。</p> <p>⑥グループ内での発表会にとどまらず、方法や内容を互いに評価できるよう、短時間で視点を絞った交流とする等の工夫を行う。</p> <p>⑦個別に解決した内容が関連付くような問いや資料提示を行う。</p> <p>⑧解決した内容を揺さぶったり、視点を変えた見方を促したりするような資料や事実の提示を行い、思考が広がったり、深まったりするようなかわり方をする。 (ゆさぶり発問、真を問う発問等)</p> <p>⑨課題に対して集団解決した内容を自分の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>⑩生活や社会、未来とのつながりを意識した働きかけを行う。</p>
終末 3～5分	<p>自覚化する</p> <p>○獲得された知識・技能や身に付けた資質・能力を自覚したり、共有したりする。</p>	<p>⑪身に付いた資質・能力を自覚し、学びの有用感がもてるような自己評価を行う。</p> <p>⑫各教科の特性に合わせた「深い学び」を意識した働きかけを行う。</p>

【アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について（イメージ）】



学年	教科	単元名	児童	場所	指導者
5年	社会科	「あたたかい土地の くらしー沖縄島ー」	5年1組35名	5年1組 教室	宮腰 唯導

本単元で育てたい資質・能力

【知識・技能】

- 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。
- 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

【思考力・判断力・表現力等】

- 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。

【学びに向かう力、人間性等】

- 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとするとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土や地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚をもつこと。

1 単元について

(1) 単元の目標と評価規準

【単元の目標】

気象条件から見て特色のある地域の人々のくらしを、沖縄県を事例として理解するとともに、自然条件と人々のくらしや産業との関わりを考えようとする。

本単元は、学習指導要領「5学年」の内容

- (1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。

を受けて設定したものである。特に「我が国の国土の様子」については、「国民生活の舞台である我が国の国土の自然やそこに見られる生活の様子などを取り上げ、自然環境としての国土の様子や特色を、広い視野から理解できるようにすることにねらいがある。」また、「国土の環境と国民生活との関連」については、「国土の環境と国民の生活や産業との間には様々な関連が見られることを、具体的に理解できるようにすることにねらいがある。」と記載されている。

そこで本単元では、暖かい気候の地域の中でも人々のくらしや産業に特色の見られる沖縄県を事例として取り上げ、様々な資料や調査活動を通してその特色について理解するとともに、自然条件と人々のくらしや産業との関わりを考えていく。

また、国土の環境と国民生活との関連について主体的に考えていこうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土や地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚などを養っていく。

【評価規準】

【社会的事象への 関心・意欲・態度】	【社会的な 思考・判断・表現】	【観察・資料活用の 技能】	【社会的事象についての 知識・理 解】
<p>① 沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりしようとしている。</p> <p>② 沖縄県の気候条件と人々の生活や産業との関わりについて、旭川市の様子と比較しながら考えようとしている。</p>	<p>① あたためた土地のくらしの事例として沖縄県を調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p> <p>② 気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連付けて、国土の気候が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考え、適切に表現している。</p>	<p>① 地図や各種資料を活用して、気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業について、必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>② 沖縄県の気候条件を生活や産業に生かしている人々の工夫や努力について調べたことを、ノートにまとめている。</p>	<p>① 国土の気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業を理解している。</p> <p>② 沖縄県の気候条件が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解している。</p>

(2) 児童の実態

社会科の学習に関心を持ち、学習問題の解決に必要な情報を資料の中から見つけ、その意味について考え、自分なりにまとめる学習に熱心に取り組む。ノートへの記述も丁寧に行い、情報を整理して書く学習に関心をもっている。

少人数での話し合い活動の力も徐々に付いてきており、お互いの考えを交流することで自分の思考を広げていくことはできるようになってきた。一方、他者の考えに意見したり、よりよい考えに高めたりするなど、思考を深めることについては課題がある。全体交流で発言する児童も限られており、人前で発言することに強い抵抗感をもつ児童もいる。

(3) 指導の手立て

「つかむ・見通す」場面では、複数の資料を読み取り、気付いたことや疑問に思ったことを交流し、それを基に学習問題をつくっていく。多様な考えを認めることで児童の意欲の喚起をねらうが、なぜそう思うのか根拠をもって話ができるようにさせたい。

「追究する」場面では、資料や地図を活用して、必要な情報を抜き出し、整理してノートにまとめられるようにしたい。そのために思考ツールを活用したい。情報を整理したり思考を可視化したりすることで、自分の考えをまとめやすくなることに気付かせたい。

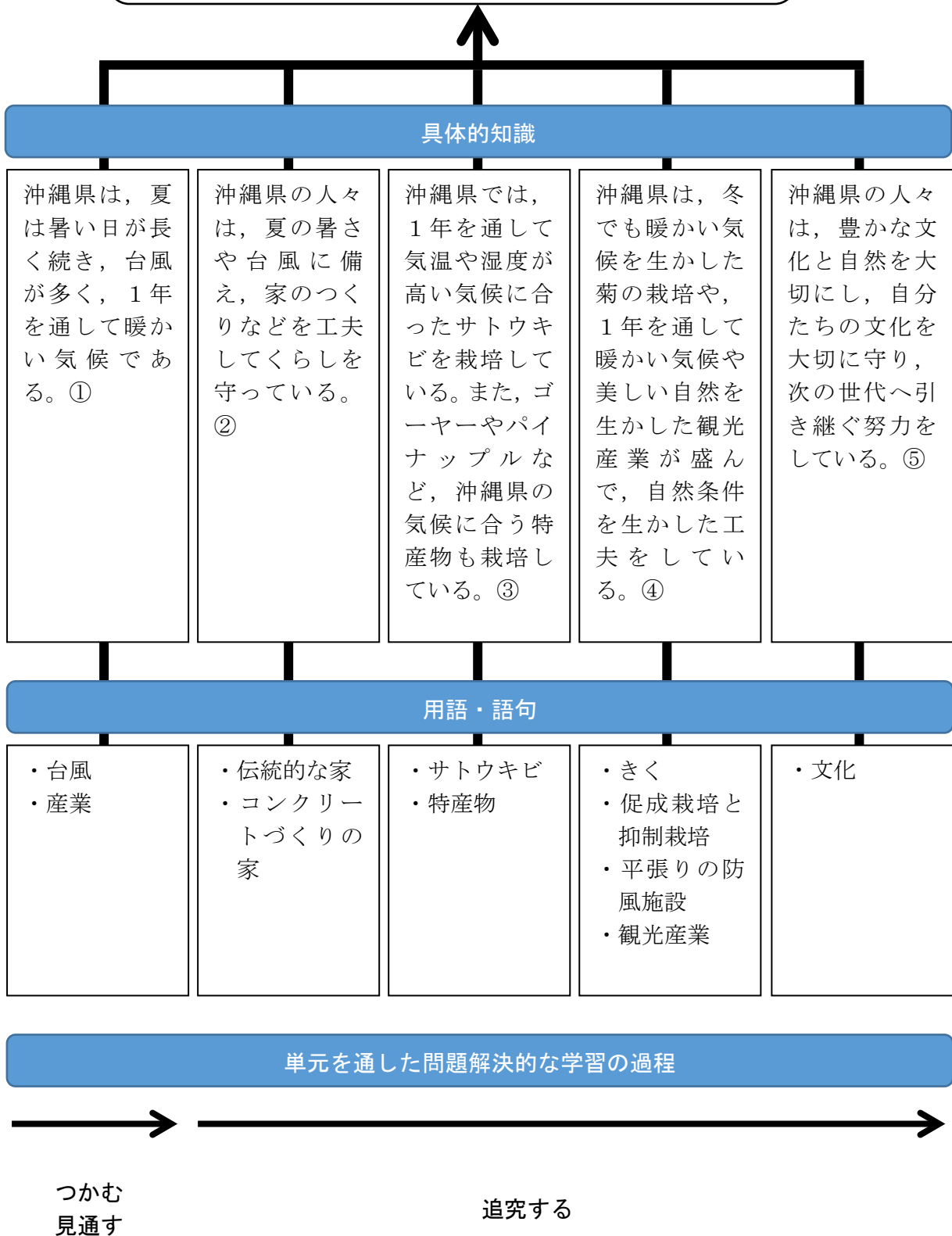
「まとめる・広げる」場面では、これまで調べてまとめてきた知識を振り返り、それぞれに共通すること（キーワード）を見つけることで、自然条件や気候条件に応じて人々が様々な工夫してくらしていることに気付かせたい。また、学習問題についての答えを、用語や語句を限定した上で、これまでの学びを振り返りながら書かせたい。

(4)単元の構造図

単元の
まとめ

沖縄県の人々は、夏の暑さや台風から暮らしを守る工夫をしたり、1年を通して暖かい気候を生かした産業を工夫したりと、自然条件に合わせた暮らしや産業の工夫をしている。

まとめる
広げる



2 単元の指導計画

【5時間扱い 本時1 / 5時間】

次	時	○おもな学習活動 ・具体的内容 <input type="checkbox"/> まとめ	教師の評価規準 (評価方法) ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
つかむ・見通す	① 本時	<p>○沖縄県の様子の写真や気温と降水量のグラフから気付いたことや疑問に思ったことを基に学習問題をつくり、解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県と旭川市の気温と降水量のグラフの比較 ・沖縄県の様子の写真から気付いたことや疑問に思ったことを書き出す <p>沖縄の人々は、夏は暑く台風の多い気候の中で、どのようなくらしの工夫をしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題について自分の予想をもつ ・前小単元で身に付けた見方・考え方、学び方を生かす 	<p>【関意態①】 沖縄県の気候条件に関心をもち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりしようとしている。(発言・ノート)</p> <p>思考を活性化させるアクティブポイント① 複数の資料を自分の生活等と関連付けて、気付いたことや疑問に思ったことを交流する。</p> <p>◇グラフや写真から気付いたことや疑問に思ったことを表現させる。</p>
	②	<p>○夏の暑さや台風に備えたくらしの工夫について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の図や写真から気付くことを抜き出し、ノートにまとめる。 ・旭川市のくらしと比較し、話し合う <p>沖縄県の人々は、夏の暑さや台風に備え、家のつくりなどを工夫してくらしを守っている。</p>	<p>【技能①】 地図や各種資料を活用して、気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業について、必要な情報を集め、読み取っている。(発言・ノート)</p> <p>思考を活性化させるアクティブポイント② 資料から読み取ったことを思考ツールやイラスト等を活用してまとめる。</p> <p>◇関連する資料に着目させ、資料の内容を読み取らせる。</p>
追究する	③	<p>○1年を通して気温や湿度が高い気候に合った農業の工夫について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビが盛んに栽培されている理由について、思考ツールでまとめる ・特産物の言葉の意味を押さえ、沖縄県の特産物についてまとめる ・旭川市の農業と比較し、話し合う <p>沖縄県では、1年を通して気温や湿度が高い気候に合ったサトウキビを栽培している。また、ゴーヤーやパイナップルなど、沖縄県の気候に合う特産物も栽培している。</p>	<p>【技能②】 沖縄県の気候条件を生活や産業に生かしている人々の工夫や努力について調べたことを、ノートにまとめている。(発言・ノート)</p> <p>思考を活性化させるアクティブポイント③ 自分のよく知る旭川市の様子と比較しながら、気付いたことを交流する。</p> <p>◇関連する資料に着目させ、必要な情報を抜き出させる。</p>
	④	<p>○冬でも暖かい気候を生かした産業の工夫について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促成栽培・抑制栽培の意味を押さえ、沖縄県の気候の特色と関連付けてまとめる ・沖縄県の防風対策と旭川市の防雪対策を比較する ・沖縄県の観光産業の特色を調べ、旭川市の観光産業と比較する <p>沖縄県は、冬でも暖かい気候を生かした菊の栽培や、1年を通して暖かい気候や美しい自然を生かした観光産業が盛んで、自然条件を生かした工夫をしている。</p>	<p>【知理①】 国土の気候条件から見て特色ある沖縄県の人々の生活や産業を理解している。(発言・ノート)</p> <p>思考を活性化させるアクティブポイント④ 促成・抑制栽培のメリットをグラフと関連付けながら考える。 旭川市の観光産業と比較させる。</p> <p>◇関連する資料から必要な情報を抜き出させたり、他の児童の発言に注目させたりする。</p>

まとめる・広げる	⑤	<p>○沖縄県の文化について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くから豊かな文化を育ててきたこと、その文化を次の世代へ引き継ごうとしていることを確認する <p>○単元を振り返って、学習問題についてノートにまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらしの様子、農業の様子、産業の样子の観点で調べたことを整理し、学習問題について考えを書く 	<p>【思判表②】 気候の特色と人々の生活や産業を相互に関連付けて、国土の気候が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考え、適切に表現している。（発言・ノート）</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>沖縄県の人々は、夏の暑さや台風からくらしを守る工夫をしたり、1年を通して暖かい気候を生かした産業を工夫したりと、自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしている。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>思考を活性化させるアクティブポイント⑤ 既習の学習内容に共通するキーワードを捉え、学習問題に対する答えを自分の言葉で書き、交流する。</p> </div> <p>◇これまでまとめてきたことに着目させ、その共通する内容に気付かせる。</p>

3 本時の学習

(1) 目標

沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりできるようにする。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

(2) 展開【5時間扱い1 / 5時間目】 * 一単位時間レベルB-①【課題重視】

	児童の活動	思考	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ ◆教師の評価（評価方法） * 思考を活性化させるアクティブポイント
導入 10分	1 写真・グラフ・資料等から沖縄県を連想し、沖縄県の気候の特色について、旭川市との比較を通して確認する。 2 本時の学習課題を把握する。	全体	<input type="checkbox"/> 児童の関心を高めるために、資料を利用した連想クイズを出す。
あたたかい土地の沖縄県の人々のくらしについて考え、学習問題をつくろう。			

展開 20分 終末 15分	3 沖縄県のくらしの様子を示す資料を読み取り、気付いたことや疑問に思ったことをノートに書き出す。	個	<input type="checkbox"/> 児童の学習意欲を喚起するために、どのような気付きや疑問も許容するが、資料や自分の生活経験を基に考えさせる。
	4 気付いたことや疑問に思ったことを全体で交流し、共有化を図る。 ・家の中が暑くなりすぎないようにどうしているのかな？ ・台風で建物が壊れたら大変だ ・暑さに適した農作物を育てているのでは？ ・一年中あたたかいから、他の地域と違うことをしているはず ・暖かさを生かした観光をしているんじゃないかな？	全体	◆ 沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりしている。(発言・ノート) * 複数の資料を自分の生活等と関連付けて、気付いたことや疑問に思ったことを交流する。
	5 気付いたことや疑問を整理し、学習問題をつくる。	全体	<input type="checkbox"/> 思考を整理しやすくするために、児童の発言を分類して板書する。 <input type="checkbox"/> 学習問題を立てやすくするために、キーになる言葉を見つけさせる。
沖縄の人々は、夏は暑く台風の多い気候の中で、どのようなくらしの工夫をしているのだろう。			
	6 学習問題を解決するための見通しをもち、学習計画を立てる。 ・家やくらし方の工夫 ・農業の工夫 ・観光などの工夫	全体	<input type="checkbox"/> 学習計画の見通しをもちやすくするために、分類した児童の疑問を生かす。
	7 学習問題に対する自分なりの予想を立て、ノートに書く。 ・家は風通しをよくしているのでは ・台風で壊れないような頑丈な家 ・暑さに強い農作物の栽培 ・きれいな海を生かした観光	個	<input type="checkbox"/> 前小単元で培った見方・考え方や学んだ知識を生かして、自分なりの予想を具体的に書かせる。 ◆ 沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりしている。(ノート)
	8 学習の振り返りをノートに書く。		

(3) 評価

◇ 評価規準の具体 (評価方法～ノート)

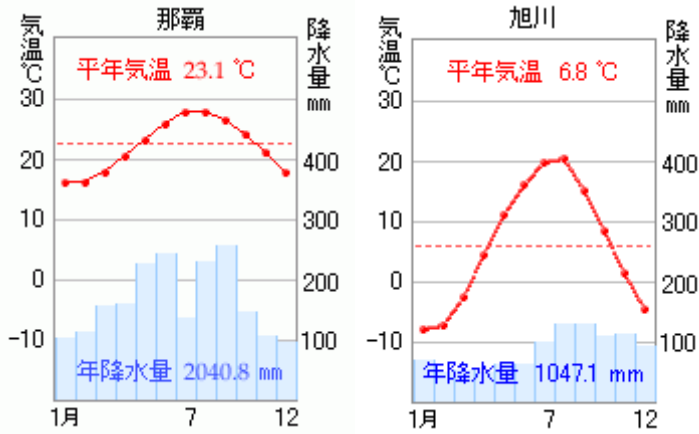
【社会的事象への関心・意欲・態度】

十分に満足できる (A) : 沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について、既習の知識や生活経験と関連付けたり、学習の見通しをもったりしながら、意欲的に考えたり調べたりしている。

おおむね満足できる (B) : 沖縄県の気候条件に関心を持ち、人々の生活や産業の様子について意欲的に考えたり調べたりしている。

努力を要する児童への指導 : グラフや写真から気付いたことや疑問に思ったことを表現させる。

(4) 本時に使用する資料や学習シート



那覇市と旭川市の気温と降水量



沖縄県のパイナップル畑



沖縄県のさんご礁



沖縄県の漆喰の瓦屋根



那覇市	
北緯	26°
東経	127°
旭川市	
北緯	43°
東経	142°

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2016							1	1	1	1			7
2015					1		2	2	1				6
2014						2	3	2	2	2			10
2013						1	1	2	1	1			9
2012							3	2	4	2	1		11
2011					2	1	1	1	2				7

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2016								5					5
2015									1				1
2014								1					1
2013									1	1			2
2012									1		1		2
2011										1			1

サンライズ



旭川市立朝日小学校 研修部便り No.1
発行:平成28年5月16日 文責:下元真冬



宮腰先生より
始めにクイズをして、子どもにわくわく感をもたせたかった。社会の授業ということもあり、資料はたっぷり用意した。単なる沖縄に関するものではなく、これからの単元で学ぶべき内容に関わる資料を使った。もっと小グループでの交流があった方がよかったのかもしれない。



良かった点

- ・始めにたくさんの資料を提示し、活用したのがよかった。
- ・写真や動画をつかったのが魅力的だった。
- ・板書のつながりが良い。
- ・資料との対話
- ・教師が聞いてくれる雰囲気
- ・学習問題のたて方についての学習にもなった。
- ・子供が自然と周りと話せていたことがアクティブだと感じた。

感想

- ・学習問題をつくるということはすごく難しいと感じた。
- ・『寒いところに住んでいるから、温かいところについて調べよう。』という動機付けが弱く感じた。「温かいところ」という言葉を子供から引き出した方がよかったのではないか。
- ・シーサー無しの瓦だけの方が良かったのかもしれない。
- ・子供の意見を分類する際、子供自身に分類させても良かったのかもしれない。
- ・写真の出る順序が違ったら、また違う流れになっていたのかもしれない。

6月研にむけて～研修部より～

- ・単元を構想する際には、学習内容相互のつながりや流れを大切に。
- ・子供の主体性を生む単元構成、展開、教材・資料の選定を練る。
- ・個で考える時間と集団で考える時間のバランスとタイミングを考える。
- ・朝日小の『対話』の押さえを確認し、何をどのように行えば深い学びへとつながるのか検討する。
(グループ≠アクティブ・ラーニング)



校長先生



今回は、単元の1時間目という貴重な時間を公開して頂きましたね。ビデオの威力はすごかったですね。気象条件、社会的事象、地理的条件、土地利用の問題…思考が広がるように投げかけることが大切です。子供の学びに向かう力を、我々教師が引き出していきましょう。

6月研(6/28)は、谷口先生と小倉先生の授業です。よい授業を目指してみんなで作っていきましょう！

